

もっと知りたい、きよせの暮らし

more!
KIYOSE City Promotion
Magazine

No. **06**
2025.07

きよせ野菜の未来を語る。

SDGs未来都市の暮しかた／二地域居住・関係人口を増やすという選択／
きよせ未来案内／KIYOSEのひと／清瀬市観光協会の推し！

関ファーム

TAKE FREE

きよせ野菜の

料理人と地元農家が囲む農業座談会

未来を語る。

都心の一流ホテルで使われ始めた、きよせ野菜。そのおいしさと、これからの可能性は？ 農家と料理人、市長が語り合う、まちの畑と食卓をつなぐクロストークです。

都市と農のまちが、
あらたな関係に

司会 今日は、きよせ野菜の未来というテーマで、ホテルの総料理長・下井シェフ、沼尻シェフ、市内生産者・ヤマヨシの小寺さん、関ファーム代表の関さん、澁谷市長にお越しいただきました。今日はその魅力をあらためて共有できればと思います。

司会 では、生産者のお二人から自己紹介をお願いします。

関 トマトや水菜を中心に栽培しています。都市近郊の農業は消費者との距離が近く、可能性があると感じています。

小寺 カブ、ニンジン、ホウレン草などをつくっています。生産する季節によって品種を使い分け、味や食感の違いを出せるよう工夫しています。

司会 では、総料理長のお二人から、清瀬市を訪れたときの印象を教えてください。

下井 駅を降りて数分歩くと広がる畑の景色に驚きま

例えば東京ではトマトの旬が4〜5月という話も、驚か

ることが多いです。旬を意識した料理が、野菜本来の

魅力を伝えてくれると思います。

司会 直売所での販売も清瀬市らしい風景です。

小寺 お客様との距離が近く「この前の野菜おいしかった」と言われると励みになります。直接顔を合わせて販売できるって、清瀬市

ならではのと思っています。

関 うちの野菜がホテルで使われていると話す「えっ、すごいね」と喜ばれることも。市民にとっても誇らしいことですね。

市長 その通りです。清瀬市の都市農業の強みは「近さ」と「質」。都心の一流ホテルでの活用は、大きな付加価値になります。さらに、それを地元で直接手に入れられるというのが、また魅力です。

沼尻 サステナビリティの観点から

も、地元食材の活用は重要です。輸送コストや鮮度だけでなく、料理にストーリーが加わるのが魅力です。

西武・プリンスホテルズ
ワールドワイド 総料理長

下井 和彦さん

G7広島サミットで各国
首脳向けメニューを監
修。確かな技術と柔軟
な発想で、幅広いゲスト
の期待に応えている。

ウェスティンホテル東京
総料理長

沼尻 寿夫さん

2010年にフランス共和
国農事功労章オフィシ
エを受章。伝統とトレンド
を融合した料理を展開
している。

愛情野菜専業農家

ヤマヨシ

小寺 良治さん

東京農業大学卒業後、愛情
野菜専業農家ヤマヨシ
に就農。ハートベジ®ブ
ランドの安心安全な野
菜を周年出荷している。

関ファーム代表

関 健一さん

400年以上続く農家の
17代目。看板商品「COCO
TOMATO」を中心に栽
培し、持続可能な農業
の形を追求中。



沼尻 今は季節感が失われがちですが、

近くの畑で育ち、
ホテルの食卓で輝く

関 野菜は天候ひとつで味が変わります。その「生きているもの」を料理人に理解してもらえると、生産者側も応えたいですね。野菜って毎日違うんですよ。「今日の味、すごくいい」って言われると、それだけで報われます。

小寺 その反応はうれしいですね。畑のリアルを見ることができるのは価値があります。

司会 畑に入ると野菜の見方が変わりますよね。

下井 若いスタッフを連れて行くと特にそうです。「カブってこう育っているのか!」と素直に感動しています。

沼尻 私と同感です。実際に来てみて、鮮度、味、人、すべてに魅了されました。ホテルのお客様にも、生産地の物語を伝えることで、より満足度の高い料理が提供できると実感しています。

司会 畑に入ると野菜の見方が変わりますよね。

下井 若いスタッフを連れて行くと特にそうです。「カブってこう育っているのか!」と素直に感動しています。

沼尻 私と同感です。実際に来てみて、鮮度、味、人、すべてに魅了されました。ホテルのお客様にも、生産地の物語を伝えることで、より満足度の高い料理が提供できると実感しています。

司会 畑に入ると野菜の見方が変わりますよね。

下井 若いスタッフを連れて行くと特にそうです。「カブってこう育っているのか!」と素直に感動しています。

沼尻 私と同感です。実際に来てみて、鮮度、味、人、すべてに魅了されました。ホテルのお客様にも、生産地の物語を伝えることで、より満足度の高い料理が提供できると実感しています。



季節の恵みを、すぐそばで ここで買える、きよせ野菜



地元でとれた旬の野菜が、産地からそのまま食卓へ。
つくり手の顔が見える安心感と、新鮮なおいしさが、
日々の暮らしを豊かにしてくれます。

JA東京みらい みらい清瀬新鮮館

農家の愛情そのままに
今日いちばんの新鮮を

野菜や果物には生産者の名前が付き、安心・安全。収穫から1時間足らずで届く“今どれ”野菜に出会える日もあります。特に夏のトウモロコシは、生でも甘く、驚くほどの鮮度です。



☎ 042-491-4500
📍 清瀬市中里3-892-7
🕒 9:00 - 16:00 / 日曜、祝日
定休



きよせ南口 農産物直売所

週末にだけひらく
畑とつながる直売所

毎週土・日曜に松山公園の一角で開催。地産地消と“顔の見えるおいしさ”を大切に、市内の有志農家たちが集まって出品する直売所には、旬の味わいと温かさが詰まっています。



📍 清瀬市松山3-13-16
松山公園内
🕒 7:00～売切れ次第終了 /
土・日曜開催

📍 地図と検索で見つかる
きよせ野菜の直売所

清瀬市観光協会のホームページで公開された「農産物直売所マップ」は、地図で場所を確認できるだけでなく、農産物の品目や地域名での検索も可能。スマホでも使いやすく、ほしい野菜がどこで買えるかがすぐに見つかります。地元野菜をもっと身近に感じられる便利なツールです。

👉 詳しくはこちら
<https://www.kiyosekanko.tokyo/useful/agri>



清瀬市農業まつり

野菜の宝船が現れる
秋のにぎわい市

毎年11月に開催される秋の恒例イベント。野菜・花・植木の即売や農畜産物の品評会に加え、野菜でできた宝船は見逃せない名物。最終日にはこの宝船の野菜がチャリティーで配布されます。

☎ 042-497-2052 (清瀬市産業振興課)
📍 清瀬市下清戸1-212-4 清瀬市コミュニティプラザひまわり



これは都心のホテルだからこそ発信できる価値だと思います。
下井 規格外品の野菜の活用も広がってほしいですね。形は不揃いでも、本来の味は変わらない。むしろ個性があつて面白い料理がつくれることもあります。

そういう理解があるととても助かります。
小寺 規格外品でも「この人がつくったものなら安心」と思ってもらえる信頼を大事にしたいです。味を知ってもらえば、自然と選ばれるようになると思います。だからこそ、顔の見える関係を大切にしていきたいです。
市長 市場では生産者が価格を決められませんが、でも、こうした関係性があれば、お互い納得のいく価格設定も可能になりますし、それが持続可能な農業経営にもつながります。

顔が見える野菜には、
伝えたい理由がある

司会 では最後に、「きよせ野菜の未来」についてひと言ずつお願いします。
小寺 野菜の個性をもっと知ってもらいたいです。たとえばカブひとつとっても、品種によって味も食感も違います。調理の仕方によって、さまざまな楽しみ方を発見していただきたいです。

関 おいしさを軸にした野菜づくりをもっと深めたい。料理人と一緒に育てていく関係が理想ですね。お互いの距離が近いからこそできることがあると思います。
沼尻 生産者の思いを料理で表現するのが私たちの役割。顔が見える野菜の力を信じています。使う度にこちらも背筋が伸びます。
下井 値段より価値で選ばれる野菜を。清瀬市にはその力があると思います。若い料理人にも畑に触れてほしいです。

しいです。体験から学ぶことの大切さをあらためて感じています。
市長 農業は清瀬市の未来を支える大事な産業。持続可能な形で次世代につなげるためにも、行政としてできる限り支援していきたいです。市としてもまちぐるみの応援団として、農業を支えていきます。
司会 本日はありがとうございました。お話を聞いていて思いましたが、清瀬市にお住まいの方が羨ましいです。

清瀬市長
澁谷 桂司

持続可能な都市農業の発展を目指し、関係者との対話を欠かさない。自らもトップセールスに奔走し汗をかく。



司会
株式会社ギリー代表
渡辺 幸裕氏

人と人を結びつける案内人。今回総料理長たちを清瀬に案内、生産者との交流を仕掛けた張本人。



日常のすぐそばにある、新しい社会への入口

SDGs未来都市の暮らしかた

令和6年、清瀬市は地方創生担当大臣より「SDGs未来都市」として選定証を授与されました。多摩26市の中では3番目の選定。日常のすぐそばにある取り組みを紹介します。

台所からつながる資源循環 廃食用油の回収

7
12 13

家庭から出る廃食用油をリサイクルする取り組みが始まりました。清瀬市はENEOS株式会社、株式会社吉川油脂と協定を結び、専用リターナブルボトルを使用した回収を実施。これまで、ごみとして出していた油を資源として再利用します。回収された油は石けんやインク原料などに活用され、将来的には再生可能な航空燃料（SAF）の原料にも使われる予定です。清瀬市のこの取り組みは全国で3例目。回収方法は、冷ました油を専用ボトルに入れてふたを閉め、市役所などの回収ボックスに持参するだけ。対象は植物性の食用油で、マヨネーズや動物性油などは不可。身近な行動から、脱炭素社会への一歩につながります。



繰り返し使用可能な専用ボトル
（リターナブルボトル）

回収用ボトル及び 廃食用油回収ボックス設置場所

清瀬市役所1階（駐車場最寄り入口）	清瀬市中里5-842
松山地域市民センター	清瀬市松山2-6-25
野塩地域市民センター	清瀬市野塩1-322-2
下宿地域市民センター	清瀬市下宿2-524-1
中里地域市民センター	清瀬市中里4-1301
中清戸地域市民センター	清瀬市中清戸4-847-5
竹丘地域市民センター	清瀬市竹丘1-11-1
清瀬けやきホール	清瀬市元町1-6-6
コミュニティプラザひまわり	清瀬市下清戸1-212-4

堆肥から始まる地域の恵み 都市農業と 耕畜連携

2 12
13 15

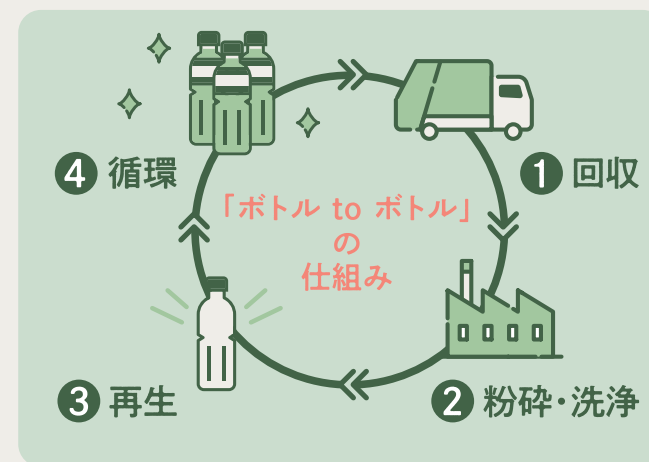
清瀬ひまわりフェスティバルが行われる農地（石井ファーム、小寺ファーム）では、毎年、冬から牧草の栽培が始まります。市内には5軒の牧場があり、「東京牛乳」や、フレッシュチーズ（more! KIYOSE No.4で紹介）の原料となる生乳の産地となっています。近年、原油価格や為替変動の影響で飼料費が高騰していることから、清瀬市が仲介し、市内で牧草を生産する取り組みを始めました。ひまわりは緑肥として牧草の肥料に、牧草を食べた乳牛のふんは堆肥として、再びひまわりや野菜の栽培に活用されます。このように、畑作農家と酪農家が連携し、地域内で資源を循環させる仕組みを「耕畜連携」といいます。限られた都市農地を活かし、酪農が盛んな清瀬市ならではの特色を生かした、持続可能な農業モデルです。

清瀬市では、SDGs未来都市としての責務のもと、今年度から堆肥を活用する農業者への補助制度を開始。農業者の負担を軽減するとともに、野菜や果樹などの畑作農業と酪農業との連携、さらに落ち葉や剪定枝などの地域資源の活用を進め、自然資本の循環と生産性向上の両立を目指しています。



脱炭素社会への小さな一歩 「ボトル to ボトル」 水平リサイクル

12
13



「ボトル to ボトル」は、使用済みペットボトルを再び飲料用ボトルに再生する、循環型の水平リサイクル。ペットボトルのキャップとラベルを外し、中をすすいで出していただくことで高品質な再資源に。石油由来の新規資源使用を抑え、CO₂排出削減にもつながります。脱炭素社会を目指す、日常に根ざした取り組み。きれいに分けて出すことが、資源の循環を支えます。

小さなしくみが、未来を動かす 清瀬市が目指す、 持続可能なまちづくり



清瀬市では、資源循環を通じた環境保全など、身近な暮らしの中からSDGsの実現に取り組んでいます。SDGs（持続可能な開発目標）は、国連が定めた2030年までの17の国際目標で、世界共通の課題に向けた行動指針です。清瀬市のまちづくりは、その6つの目標と深く関わっています。

ごみ収集から脱炭素へ 燃料電池ごみ収集車

7
11 13

水素を燃料とする「水素パッカー車」の試験運用が清瀬市でスタート。走行時にCO₂を排出せず、静音性にも優れた次世代型の収集車です。市民に最も身近なごみ収集を通じて、脱炭素社会への転換を着実に進める取り組み。持続可能なまちづくりが、静かに動き出しています。



移住でも観光でもない、ちょうどいい距離感

二地域居住・関係人口を増やすという選択

二地域居住とは、都市と地方、都市内・地方内などを行き来しながら、暮らしや働き方の幅を広げる新しいライフスタイル。関係人口は、まちに暮らすとともに、その地域と関わる人たちのこと。風通しのいい関係が、清瀬市の景色を少しずつ変えていきます。

住まなくても始まる関係 まちとつながる第一歩

都市と地方、都市内・地方内などの両方に拠点を持ち、行き来しながら暮らす「二地域居住」というライフスタイルが注目されています。清瀬市でもその受け入れに取り組んでおり、まちの魅力に触れるきっかけづくりを進めています。

また、「関係人口」とは、まちに暮らすまでも、その地域の活動に関わり、応援してくれる人たちのこと。無理なく関わるその姿は、新しい風をこのまちに運んでいます。

全国的に人口減少が進む中、清瀬市でも将来的な税収の減少が懸念されており、従来の行政サービスの維持が難しくなることが予想されています。この



緑あふれる清瀬金山緑地公園は、親子でのんびり過ごすのにぴったり。休日には、思い思いの時間を楽しむ家族連れの姿が見られます

訪れたいくなる仕組みを 全国に広げる挑戦

ことから、清瀬市では、定住・移住の促進や観光などによる交流人口の増加だけでなく、二地域居住や関係人口といった多様な関わりを広げる取り組みに力を入れています。こうした住まなくても関わる人々がまちとつながることで、新たな賑わいや将来的な移住の可能性が生まれます。

清瀬市では、まず国土交通省が推進する「二地域居住等官民連携プラットフォーム」に多摩26市で初めて自治体として参加。これは、例えば「田舎に住み、都心で働く」といった多拠点での暮らし方を支援する仕



詳しくは
こちら！

「ふたつの暮らし」を楽しむ 二地域居住等官民連携 プラットフォーム

都市と地方、都市内・地方内など2拠点で暮らす「二地域居住等」は、生活拠点としては別の地域と関わりながら、仕事や生活を両立する新しいライフスタイル。国土交通省が官民連携で進めるこの取り組みに、清瀬市も参加しています。移住にハードルを感じる人も、まずは「もうひとつの暮らし」を始めてみませんか？



もうひとつの柱が、ほかの自治体との連携です。例えば長野県坂城町とは「電車であちこし」をテーマに交流が続いており、現地イベントへの参加や、10月のきよせ

市民まつりでの出店などが行われています。北海道津別町とは、鉄道保存がきっかけでつながり、名物の「クマヤキ」が、きよせ市民まつりに登場予定です。福島県北塩原村とは食育を通じた連携があり、きよせ市民まつりへの出店など、さまざまな形で交流・連携をすることで相互に魅力発信をしています。

きよせファンを育てる 関係人口という選択

澁谷市長はこう語ります。「選ばれるまち」を目指して各自治体が努力する中で、限られた人を奪い合うのではなく、新たな発想として、関係人口や交流人口を増やすことでまちの活性化を

図りたい。清瀬市の自然や歴史、文化といった魅力に加え、新たな賑わいをつくることで、きよせファンを増やしていきたいと考えています。」

こうした新たな賑わいづくりは特産品の開発や施設整備にも表れています。清瀬市では「きよせ棒」や「清瀬まん」などの特産品開発を進めており、来年2月には南部地域児童館等複合施設が開館予定（P10参照）。園内には鉄道車両「夢空間」を修復して設置するなど、新たな賑わいの拠点づくりが進行中です。いきなり「住む」のではなく、まずは「関わる」。そんな、無理のないつながりから、清瀬市とちょうどいい関係が始まります。

つながるまちの輪

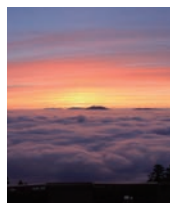
清瀬市では、ほかの自治体とゆるやかにつながりながら交流を深めています。代表的な3つのまちをご紹介します。



坂城町

長野

しなの鉄道・坂城駅を中心に「電車であちこし」を展開。鉄道ファンにも人気の「169系電車」や「坂城駅ナカマルシェ」など、駅を起点とした賑わいづくりに力を入れています。



津別町

北海道

廃線となった旧ふもとと銀河線の駅舎や転車台など、鉄道遺産をまちのシンボルとして大切に残す津別町。「クマヤキ」をはじめとするユニークな地域発スイーツでも知られています。



北塩原村

福島

磐梯山のふもと、自然豊かな北塩原村では、地元食材を活かした「食育推進」に力を入れています。学校や地域での食育活動を通じて、子どもから大人まで食の大切さを学ぶ取り組みを展開。

きよせ未来案内

まちと未来が、
夢の車両でつながる

清瀬駅南口から徒歩約15分。中央公園が大きく生まれ変わりつつあります。令和8年2月には南部児童館等複合施設がオープン、同年10月には中央公園も全面リニューアルオープン予定。地域に新しい賑わいを生み出す複合的な公共空間が、少しずつその姿を現してきました。

このエリア整備の目玉として注目を集めているのが、日本の豪華客車のパイオニアであり、日本鉄道史においても貴重な鉄道車両「夢空間」の復活プロジェクトです。市民ワークショップや清瀬市鉄道車両譲受検討委員会の



提言を受け、新たな賑わいの創出などを目的に、清瀬市が「三井ショッピングパークららぽーと新三郷」から2両の車両を無償で譲り受けました。令和7年1月に中央公園へ搬入された「夢空間」は、現在外装塗装が行われており、順調に復元工事が進んでいます。昨年車両の搬出入費用の一部を賄うために実施したクラウドファンディング第1弾では多くの皆さまからたくさんのご支援いただきました。今夏、次のステップとなる第2弾クラウドファンディングをスタートします。ご支援は、内装の修復や空調・電装系の整備などに充てられる予定です。文化財としての価値が高い鉄道車両を活用した取り組みが、清瀬市の新たな観光資源として大きく注目されています。

9月開催予定！ 工事現場見学会に行こう

今年6月に予定していた南部児童館等複合施設の工事現場見学会は、残念ながら雨天のため中止となりました。ご応募・ご期待くださっていた皆さまには申し訳ありません。次回の開催は9月を予定しています。ふだん入ることのできない建設中の現場を間近で体感できる貴重な機会です。施設の完成に向けて動く現場の“今”を、ぜひその目でご覧ください。

詳細やお申し込み方法は、今後の市報などをご確認ください。

今年9月には工事現場見学会も開催予定で、市民とともに施設の完成を見守る機会が用意されています。文化・自然・新たな賑わいをつなぐ新しい中央公園には、これからの清瀬市のランドマークとして、イベントが行える「PARK PLATF ORM」や「にぎわい広場」、親子で気軽に立ち寄れる広場など、日常の中で多世代が交流できる環境が整いつつあります。



2025年
4月
Re-new!



神山公園バスケットコート

もっと自由に、もっと安全に
新しいバスケの広場

児童センターころぼっくるに隣接する神山公園のバスケットボールコートを更新。コートやゴールを改修し、コート周りにはフェンスを設置したことにより、より安全・安心にプレーを楽しめる環境となりました。

☎ 042-497-2098 (水と緑と公園課公園係)
📍 清瀬市中清戸3-235

2025年
3月
Re-new!



中里山戸公園

日々の暮らしに寄りそう
親子で通えるまちの広場

かつての自転車置き場が、公園としてリニューアル。滑り台のある遊具設備を新設し、小さな子どもたちも安心して遊べる設計に。住宅街に位置し、地域に寄り添う身近な公園として整備されました。

☎ 042-497-2098 (水と緑と公園課公園係)
📍 清瀬市中里3-966-1

あらたな公共空間、続々と

まちのあちこちで多世代に寄り添う公共空間を整備しています。
すでに利用が始まっている4つの施設をご紹介します。

2025年
4月
Re-new!



きよせ駅前 ポケットパーク

人が集まり、輪が広がる
駅前にできた憩いの場

駅前に新たな賑わいを生むポケットパークが誕生。テーブルと椅子を備え、キッチンカー出店も可能なスペースとして整備されました。憩いと交流の小さな場として、これからの活用に期待が高まります。

☎ 042-497-2098 (水と緑と公園課公園係)
📍 清瀬市元町1-555-37

2025年
4月
Re-new!



清瀬市松山多世代交流施設 えーるプラザ松山

多世代の交流を育む
地域のあらたな拠点

松山集会所が多世代交流施設として再スタート。スマートロックやキャッシュレス対応により予約がスムーズに。会議室や和室を備え、子育て支援やシニアの集いなど、多様な地域活動の拠点として活用が広がっています。

☎ 042-495-1717 (竹丘地域市民センター)
📍 清瀬市松山3-13-14

KIYOSEのひと

増田洋蘭 (洋蘭・パッションフルーツ農家)
増田道浩さん・布美子さん

胡蝶蘭からパッションフルーツへ。農家としての転機と、夫婦で挑んだジャムづくり。清瀬の恵みを詰め込んだ物語が、いま多くの人の手に届いています。



「今年は例年より1ヶ月くらい遅いかな。8月初旬から出荷できると思います。」

まだ青い実を手にも、そう話すのはパッションフルーツ農家の増田さんご夫婦。もとは胡蝶蘭を育てていましたが、コロナ禍と重油高騰を機に花から果物へと転換。広い温室は、今や青々と茂る果実のつるで埋め尽くされています。

パッションフルーツは、「JA東京みらい みらい清瀬新鮮館」で販売予定のほか、「パティスリー ボンボンガトー」や「レストラン アルブル」など市内の店舗でも使われ、香りのよさと味わいで人気です。

転機のきっかけをつくったのは、妻の布美子さん。「ジャムづくりが好きで、香りのよいパッションフルーツを使ってみたかったんです」と笑います。



実は「ジャム屋をひらきたい」という十年来の夢があり、「コンテストで金賞を獲ったら開業する!」と決意。夫の果物で挑戦を始めました。

1年目、2年目と銀賞。そして諦めかけていた3年目、レモンマーマレードで念願の金賞を受賞。さらに今年、英国開催の「ダルメイン世界マーマレードアワード」でも、ゆずマーマレードが金賞に輝きました。

「本当にやるつもりなのかな~と思っていた」と道浩さんは笑いますが、家族一丸での挑戦です。ラベルにはお二人の息子さんの名前にちなんだ英語の言葉を添え、贈りものにも喜ばれるようデザインにもこだわりました。

今年5月には「増田洋蘭」の屋号でジャムの製造・販売を開始。月替わりのラインナップで、「ちょっとした手みやげに使ってもらえたらうれしいです」と布美子さんは話しています。

清瀬市観光協会の
お
推し!

きよはちサイダー
340ml 350円(税込)



はちみつ香る、まちのサイダーが新発売

清瀬市観光協会がプロデュースする、ご当地ならではの新商品「きよはちサイダー」がまもなく登場します。清瀬市役所の屋上で採れたはちみつ「きよはち」を使用し、やさしい甘みと炭酸の爽快感が特徴。キンと冷やしてゴクゴク飲みたくなる、清瀬の新しい定番です。まちの味わいを、ぜひご堪能ください。



[きよはちサイダー販売場所]

- ・ひまわりフェスティバル内 清瀬市観光協会テント (7/26~8/3)
- ・清瀬市役所 1F売店 (8/4~)



販売場所はこちら

more! KIYOSE vol.06

発行: 清瀬市シティプロモーション課
発行月: 2025年7月
問合せ: ☎042-497-1808 (直通)
制作: 合同会社ハチコク社
表紙撮影: サイトウ ユウキ
本誌記載内容の無断転載はご遠慮ください。
©2025 more! KIYOSE all rights reserved.



SDGs
未来都市
しあわせは、ここにある
清瀬市
Kiyose City

清瀬市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



みんなの力で
大江戸線を清瀬市へ

あなたの声をお聞かせください

本誌へのご意見やご感想、
気になる情報や見てみたい企
画も募集中です。これまでの
号も合わせてご覧ください。

ご回答は
LoGoフォームへ



バックナンバーは
こちら

